

平成26年度第6回政策会議

日時 平成27年2月17日（火）10:30～11:30

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 山本教育長 秋田企業局長
川越総務部長 山田財務部長

1 亀田地区における統合施設の整備に向けた基本的な考え方について

◎対応 谷口企画部長 堀田市民部長 種田保健福祉部長 岡崎子ども未来部長
政田教育委員会生涯学習部長 本吉企画部次長 湯浅計画推進室長
田畑計画調整課長

◆ 議題の趣旨 ◆

亀田地区における5つの公共施設、「亀田福祉センター」「美原老人福祉センター」「美原児童館」「亀田青少年会館」「亀田公民館」を統合し、それぞれの機能面に配慮した、利便性の高い複合施設整備に向け策定した、「亀田地区における統合施設の整備に向けた考え方」について、内容を協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

一部修正の上、本案の内容は、了承されました。

◆ おもな発言 ◆

□田畑計画調整課長

亀田地区における公共施設のうち、亀田福祉センター、美原老人福祉センター、美原児童館、亀田青少年会館、亀田公民館の5つの施設を統合し、利便性の高い新たな複合施設を整備することで、新たな施設整備を望む市民の要望に応えるとともに、維持管理経費や将来における大規模改修や建て替えのための更新費用の削減にも繋げていこうと考えているものである。

統合の検討にあたっては、施設規模が一番大きく、利用者が一番多い亀田福祉センターの機能をベースとして今後検討する。また、その他の統合対象施設の設備の集約や機能については、建設コスト等を考慮しながら今後検討する。

その他、利用者の利便施設として、コンビニエンスストアや喫茶コーナーの施設配置も検討していく。

現亀田福祉センターの駐車場は35台であるが、慢性的なスペース不足となっており要望も多いことから、拡充を検討する。

バス路線の乗換拠点の整備検討について、昨年5月に策定した「函館市地域公共交通総合連携計画」では、バス路線網を再編し、市内に7つの乗換拠点を設け、ゾーンバスシステムを導入することを計画しているがその拠点の一つとして、亀田地区統合施設を乗換拠点として検討したいと考えている。

今後の想定スケジュールについては、今年度はこの基本的な考え方をとりまとめ、27年度には、利用者団体との意見聴取、パブリックコメントを実施したうえで基本計画を策定することとし、28年度以降は基本設計、実施設計、解体、建築工事

を行い、平成32年度に供用開始を予定している。

■谷口企画部長

また、亀田支所の今の現状を踏まえ、支所機能の一部移転ということについても、関係部局で協議を行っているところである。

■工藤市長

整備スケジュールは、これだけ時間がかかるのか。

■谷口企画部長

平成31年度までの合併特例債活用期限を見据えた上で、スケジュールを組み立てている。来年度の基本計画策定までは企画部が担っていくが、統合施設がどういう使われ方をするのか、その性格や利用形態などを見極めた上で、最終的な所管部局を決めたいと考えている。

■工藤市長

所管部局などについては、基本計画策定の中で検討することとし、それまでは、企画部が中心となってまとめていくこと。